

令和5年度第1回金沢市食品ロス削減推進協議会議事要旨

◇日 時 令和5年7月14日(金) 10:00～11:30

◇場 所 第二本庁舎2階 2201会議室

◇出席者 (順不同、敬称略)

会 長	池本 良子	(金沢大学名誉教授)
副会長	田中 弘美	(北陸学院大学健康科学部教授)
	上田 久美子	(金沢市校下婦人会連絡協議会副会長)
	鍛冶 一雄	(石川県スーパーマーケット連絡協議会代表幹事)
	楠部 孝誠	(NPO法人いしかわフードバンク・ネット理事)
	志賀 嘉子	(一般社団法人石川県食品協会)
	杉山 朋美	(北陸大学薬学部准教授)
	橘 宏和	(市民公募)
	中村 明仁	(金沢市旅館ホテル協同組合)
	西田 哲次	(金沢商工会議所常務理事)
	林 貴江	(石川県生活学校連絡会)
	松坂 範子	(環境にやさしい買い物推進協議会)
	宮野 義隆	(石川県農業法人協会会長理事)

(欠席者) 今井 喜久子 (市民公募)
鍋島 盛雄 (石川県飲食業生活衛生同業組合理事長)

事務局	加藤 弘行	(金沢市環境局長)
	永井 俊宏	(金沢市環境局環境政策課長)
	三傳 敏一	(金沢市環境局環境政策課ゼロカーボンシティ推進室長)
	桜町 征布	(金沢市環境局環境政策課課長補佐)
	宗藤 雅美	(金沢市環境局環境政策課課長補佐)
	長田 麻由	(金沢市環境局環境政策課ゼロカーボンシティ推進室主任)
	加藤 萌子	(金沢市環境局環境政策課ゼロカーボンシティ推進室主任)
	坂口 菖子	(金沢市環境局環境政策課ゼロカーボンシティ推進室主事)
	坂本 和奏	(金沢市環境局環境政策課ゼロカーボンシティ推進室主事)

◇会議次第

1. 開会
2. 役員（会長、副会長）の選出
3. 議事
 - (1) 令和4年度食品ロス削減推進事業報告
 - (2) 令和5年度食品ロス削減推進事業（案）
 - (3) 第7回食品ロス削減全国大会（案）
4. その他
5. 閉会

加藤局長	<p>【1. 開会】 <局長あいさつ> 先週から大雨が続き、県内外で大きな被害が生じている。金沢市においても一部冠水、崩土被害が生じている中、お集まりいただき感謝申し上げます。</p> <p>ご承知の通り、本市では令和2年度に策定した金沢市食品ロス削減推進計画に基づき、食べ物の「もったいない」がないまちを目指し、様々な取り組みを進めている。</p> <p>ご家庭、地域団体、飲食店をはじめとする事業者の皆様方のご協力のおかげで、本市の食品ロス量は減少傾向にあり、一定の効果を感じている。</p> <p>本日は、昨年度の我々や皆様方の取り組みの報告に加え、今年度の事業案や10月開催予定の食品ロス削減全国大会案についてご審議いただく。</p> <p>皆様方からのご意見等を十分参考にさせていただきながら、各事業を実り多いものとしていきたい。本日はどうか皆様方の忌憚のないご意見を賜りたい。よろしくお願い申し上げます。</p>
会長	<p>【2. 役員選出】 （委員の互選により、会長が池本委員、副会長が田中委員に決定）</p> <p><会長あいさつ> 引き続き会長にご推薦いただき感謝申し上げます。</p> <p>食品ロス量についてこの後報告があるが、着実に成果が出ているようである。先日、泉丘高校の学生から食品ロスについて課題研究をしたいとの相談を受け、若い世代にも食品ロスの問題が少しずつ浸透してきていることを感じた。</p> <p>この協議会は、食品ロス削減に向けて皆さんで考えていこうという会であり、堅苦しい会ではないので、和気あいあいと意見交換ができれば良いと思う。よろしくお願い申し上げます。</p>
事務局	<p>【3. 議事】 (1) 令和4年度食品ロス削減推進事業報告 （資料1をもとに説明）</p>

委 員	基本方針1 食品ロス発生抑制のための普及啓発にて様々な教室を開催 する中で、参加者のレビューがあれば教えてほしい。
事 務 局	料理教室では親子を対象に実施しており、参加したお子さんからはクイ ズを交えた食品ロスの説明が分かりやすかったとの意見をもらった。親御 さんからも体験を通して食品ロスについて学ぶことができ良かったと 好評であった。
委 員	教室開催後の参加者アンケートにより、参加者の行動がどう変わったか 等の検証をすると良いと思う。そうすることで、開催側のモチベーション にも繋がると思う。
会 長	とても重要な点であるため、参考にしたい。
委 員	フードドライブ活動について、市民から提供を受けた食品が、賞味期限 切れなどにより提供先に行かずに廃棄されることはあるか。
事 務 局	フードドライブは賞味期限が1か月以上残っている食品を対象として おり、受付時に必ず賞味期限を確認している。受付時に期限が切れている あるいは1ヶ月未満のものは、ルールを説明した上で持ち帰りいただい ているため、受取り時点での廃棄は発生していない。
委 員	いいね・食べきり推進店登録制度で昨年度は169店舗の登録があったと のことだが、市内飲食店の母数は把握しているか。 また、食べきれなかった料理の持ち帰りモデル事業において、持ち帰り パック使用数の報告があったが、それにより削減できた食品ロス量は把握 しているか。あまり少ない量を持ち帰ってもらっても、結局パックのごみ が増えていくのではないか。
事 務 局	市内飲食店の母数は3,700店舗（H18年時点）である。 持ち帰りモデル事業における食品ロス量は、1パックあたり約100gと した場合、162kg程度になると試算している。パックについては、トウモ ロコシを原料としたバイオプラスチック製の環境にやさしい素材のもの を使用している。
委 員	いいね・食べきり推進店登録制度について、石川県の事業である「美味 しいしかわ食べきり協力店」とは連携しているか。 また、令和4年度の食品ロス量についてもうすでにR12年度の削減目標 を達成しているが、今後目標値の設定をどうするのか。
事 務 局	石川県との連携については、いいね・食べきり推進店の登録申込書に、 県の「美味しいしかわ食べきり協力店」への登録希望について問う欄を 設けており、同時に申込みを可能としている。

	<p>既に削減目標を達成している理由の一つは、今までの市の施策の効果が出ているためだと考えている。一方で、コロナの影響も大きく、事業活動が従来のようにできないことや、外食が減り家庭内での飲食が増えることによって、消費期限切れによる廃棄が減るなど、適切な消費への意識が高まったことも要因として考えられる。そのため、今すぐにこの削減目標を見直すのではなく、計画策定から2年しか経過していないこともあることから、もうしばらく推移を見守りながら施策に取り組んでいきたい。</p> <p>なお、ごみ処理に関する総合的な計画である「ごみ処理基本計画」を今年度見直すことになっており、食品ロスの削減はごみの減量化にとって重要な施策の一つであるため、その中でこういった取り組みができるか、どれくらい削減できるかについて検討していきたいと思っている。</p>
<p>会 長</p>	<p>今回は少しイレギュラーな状況で5年に1回の組成調査をしたとのことだが、次回の調査のタイミングに関してはどのような考えか。効果を見極める上でも、頻度を多くすることを考えてはどうか。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>ごみ組成調査は、ごみ処理基本計画の策定に合わせて行っており、家庭系、事業系それぞれ排出された段階のごみを回収し、その中身を開封して調査を行っている。これは大変な作業となり、市では5年に一度委託により実施している。この5年という期間が短縮可能であるかについては今後検討したい。効果については、様々な事業におけるアンケート調査や、その後のフォローアップを行う中で、食品ロス削減に関する意識の変化等について検証しながら見極めたいと考えている。</p>
<p>委 員</p>	<p>農業における収穫後のロスが業界では問題になっているが、これは食品ロスに分類されない。生産者、小売店、消費者のそれぞれから食品廃棄物が出る中で、消費慣習を変えること等が消費者教育のために大切であり、もっと小売店へのアプローチが必要ではないか。</p> <p>また、事業系の燃やすごみについて、市内の事業所から排出され、市外で処理をするものは含まれるか。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>我々もあらゆる機会を捉え、パンフレットや講座により啓発活動を重点的に行っているが、皆様からのご意見を踏まえながらできることをしっかりとやっていきたい。今年度改訂を行うごみ処理基本計画の中でも検討していきたい。</p> <p>基本的に一般廃棄物である食品廃棄物は、市内での処理が原則であり、ご報告した数量が市内で処理したごみ量のほぼ全てである。ただし、製造業から出る食品廃棄物などは産業廃棄物に分類され、市や県を跨いで処理されることがあり、その廃棄物量に関しては把握できていない。</p>
<p>委 員</p>	<p>一般廃棄物となる食品廃棄物の排出事業者にはどのような業種が含まれるか。</p>

事務局	飲食店、ホテル、学校等を含む全ての事業所である。
委員	食品製造業から出た食品ロスについては考えないという前提か。
事務局	我々地方自治体の責務は、一般廃棄物の処理計画を策定し、一般廃棄物の減量化および資源化を進めることである。
会長	この協議会は、上流から下流まで様々な立場で食品に関わる皆様が集まって、食品ロス削減のための解決策を議論しようという目的で作ったものである。生産段階で出る廃棄物はこの統計には含まれないが、今後それも含めて、それぞれの主体が連携しながら食品ロスを減らすために議論できたら良いと思う。
事務局	(2) 令和5年度食品ロス削減推進事業（案） （資料2をもとに説明）
会長	昨年度行ってきた事業を継続しながら、一部の事業において拡充を進めていくということであった。
事務局	(3) 第7回食品ロス削減全国大会（案） （資料3をもとに説明）
委員	大会の主催が当協議会ということであったが、委員の参加は必須か。
事務局	30日の本大会には是非お越しいただきたいが、必須ではない。8月下旬以降、募集チラシが準備でき次第案内させていただくため、所属団体等へご周知いただきたい。
委員	この大会は誰を対象にしたものか。
事務局	主に金沢市民、また、自治体職員を含む全国の方を対象としている。
会長	全国持ち回りで毎年開催している大会を、今年は金沢で実施するということである。平日の開催となり都合を付けるのが難しいかもしれないが、是非皆様で盛り上げていけたらと思う。 皆様の関係団体の方にも是非積極的にご周知いただき、参加いただくことと、展示ブースでは販売や試食も可能であるため、出展をご検討いただければと思う。
委員	参加希望者が多かった場合、当日の入場制限等を行う予定か。過去に開催した他都市における大会の入場者数は把握しているか。
事務局	当日の参加者が多い場合は、2階席を開放する予定である。過去の大会

委員	<p>については、昨年のさいたま市は日曜日の開催だったこともあり、入場者数は700名程度で、平日開催の年は300~400名程度であった。</p> <p>逆に参加者が少ないことも考えられるため、よほどターゲットを絞って広報しなければ、関係者ばかりとなり、本当に来てほしい人に届かないような気がする。</p>
会長	<p>広報手段についてはどのように考えているか。テレビCMやLINEでの広報はするのか。</p>
事務局	<p>まずは新聞の市広報欄に掲載する。その他、SNSを活用するほか、無料情報誌などに掲載することも検討している。また、大学や調理の専門学校等に直接伺い、学生の参加を呼び掛けている。</p>
委員	<p>10月30日の17時から予定している協議会総会には参加の必要があるか。</p>
事務局	<p>これは、全国の自治体で構成される「全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会」の総会を指すため、委員の皆様に参加いただく必要はない。</p>
委員	<p>この大会は、当然市の予算を使って開催されるものだと思うが、この事業の成果の検証方法についてはどのように考えているか。</p>
事務局	<p>全国自治体からの参加者には、過去の大会と比べてどうだったか、その率直な意見を聞きたいと考えている。一般来場者にもアンケートを取り、参加による意識や行動の変化について調査し、効果の検証ができればと考えている。</p>
委員	<p>例えば、ランダムにモニターを設定し、その方がこの大会をきっかけにこのように変わったという経過を見る方法もある。</p> <p>全国自治体から参加があるとのことであったが、行政の関係者はどのくらい参加するのか。</p>
事務局	<p>昨年度のさいたま市では、50名が参加した。今回も同程度の参加を見込んでいる。</p>
委員	<p>会場には、なぜ文化ホールを選んだのか。</p>
事務局	<p>会場は、事務局にて検討の結果、まず市有の施設であるという点、また展示用のスペースがある点、さらに定員の規模を考慮した結果、文化ホールに決定した。</p>
委員	<p>開催日を土日ではなく平日としたのはなぜか。また、大会の開催は金沢</p>

事務局	<p>市が誘致したのか。それとも持ち回りで実施しているのか。</p> <p>開催日については、食品ロス削減推進法の中で「食品ロス削減の日」が10月30日に決まっているため、この日に合わせて毎年開催しているという経緯がある。</p> <p>この全国大会は、これまで食品ロス削減の取り組みを先進的に行ってきた自治体において開催されており、本市での食品ロス削減推進計画の策定をはじめ、これまでの精力的な取り組みが評価されたため、消費者庁からの推薦を受け、本市で開催することとなった。</p>
会長	<p>他自治体からは、平日の方が参加しやすいと思う。31日の自治体職員向け研修は、過去に開催されたものとは異なり、現地見学をする魅力的な研修会となっている。金沢でイベントをするとたくさんの方が集まるため、自治体からの参加希望者は多いのではないかと思う。</p> <p>本大会では学生も参加できればと思っているので、是非お声がけいただきたい。</p>
委員	<p>我々が周知をする際には、どのようなツールが用意されるか。</p>
事務局	<p>チラシとポスターをお渡しするほか、それらのデータもお送りする。</p>
委員	<p>テレビ広報はするのか。</p>
事務局	<p>広報広聴課を通じて申込みをする予定である。</p>
委員	<p>【4. その他】</p> <p>10月30日が食品ロス削減の日であることを先ほど初めて知った。おそらく、ほとんどの人が知らないのではないかと思う。</p> <p>食品ロスやごみ問題について、スーパーマーケットの立場から考えると、店舗からは毎日多くのごみが出ており、これを減らすためには、野菜の場合、カットした状態のものを納めてもらえれば良い。しかしそうすると生産者側のごみが増える。</p> <p>総菜のごみを出さないようにするには、作る量を減らせば良い。</p> <p>野菜を小分けにして販売すれば、家庭からのごみを減らすことができる。しかしそうすると、プラスチックごみが必ず増えることになる。このようなことには矛盾が多いと感じるし、非常に難しい問題である。</p> <p>スーパーマーケット協議会の総会が8月に開催されるので、参加者の皆さんに意見を聞き、スーパーマーケットとしてできることについて考えてみようと思った。</p>
事務局	<p>この協議会はそのような提案を期待している協議会であるため、ぜひ何か提案していただくと良い。本当に難しいことだと思うが、何かできることがあったら教えていただければ、市の方でもサポートとなるような取</p>

委員	<p>り組みができるかもしれない。ぜひよろしく願います。</p> <p>我々は商品の特性上、普段冷凍した状態で保管・流通をしており、基本的に全部を売り切る仕組みを作っているのですが、ロスを出すことはほとんどない。しかし、製造過程でどうしてもロスが出る場合に、フードバンクの受け入れができず困ることがある。そのような場合、直接児童養護施設等に問い合わせ提供している。</p> <p>その際に、福祉団体ごとにどのような食品をどれくらい受入れられるか、連絡先をリストアップしたものがあり、それをインターネットで閲覧できる仕組みがあれば、様々な事業において活用できるのでないかと思う。</p>
事務局	<p>市で事業化できることがあれば、検討したい。</p>
会長	<p>今の件については、環境政策課だけで取り組むのは難しいと思うので、福祉の方と連携して何かできれば良いと思う。</p>
委員	<p>今回、全国大会を金沢で実施するという事は、食品ロス削減へのこれまでの積極的な取り組みが評価されたということであるので、事業の実績や組成調査の結果については、他の自治体のものと比較できると良いと思うが、他の自治体の食品ロス発生量などは把握しているのか。</p> <p>また、ダンボールコンポストを使って生ごみの堆肥化を推進しているとのことであるが、先日テレビで若い人がおしゃべりに持てるようなバッグを使ったコンポストが紹介されていた。市では堆肥の回収もしているとのことだが、持って行きやすさの面でもバッグ型のは優れているし、一人暮らしの学生でも気軽に取り組むことができるので、このようなものを取り入れてはどうか。</p>
事務局	<p>他の自治体の実態把握はしていないので、今後検討していきたい。なお、国が公表した令和3年度の我が国の食品ロス量は約523万トンで、国民1人当たりになると、およそ114グラム。一方、金沢市の場合は、1人当たり96グラムとなっている。先ほど金沢市ではこの5年間で26%削減と報告したが、国の方ではここ4年間で15%削減となっており、国の平均より高い数値で削減が図られているという状況である。</p> <p>生ごみの堆肥化について、本市では、これまで手軽に取り組める方法としてダンボールコンポストを普及してきた経緯がある。今後、ダンボール以外の方法について研究していきたい。</p>
委員	<p>この協議会自体が市民の方に向けての事業が多いと思う。ただ、この事業の内容は市民の中でも、既に環境への興味や意識が高い層に向けたものが多いように感じる。</p> <p>やはり元々興味を持っていない方に興味を持ってもらうことにより、母数が大幅に増えると思う。それが、この協議会の本当の意義であり、本質</p>

<p>事務局</p>	<p>的な部分だと思うので、興味のない方に向けた事業を新規に考えて行くことが、全国大会を開催し、他自治体をリーディングしていく都市として重要であると感じる。例えば、LINE や YouTube をはじめとする SNS を活用した取組みなど、元々興味のない方も見たくなるようなアプローチも効果的であると思う。SDG s を推進する IMAGINE KANAZAWA のパートナーズ企業にも専門の事業者がいるため、事業の発信も含めて連携しながら進めることを検討いただければと思う。</p> <p>ご指摘のとおり、興味がない方に対し、どうアプローチしていくかというところが我々の課題である。</p> <p>そうした中で、若い方に興味を持ってもらうため、昨年度はエコスイーツのレシピ集を作成した。さらに、食品ロスに特化したものではないが、ごみの減量をテーマにしたデジタルコミックを制作した。エピソードを市民から募集し、それを題材にして金沢美術工芸大学の学生にコミック化を依頼し、SNS で配信するなど、若い世代や興味を持っていなかった方にも見てもらえるような工夫をしているところである。</p> <p>我々環境局だけではできないこともあるため、他部署とも連携し、世界的な課題である SDGs に組み込みながら、しっかりとした周知啓発ができるよう検討していきたい。</p>
<p>会長</p>	<p>この協議会でもそれはずっと課題であり、親子一緒に参加してもらう出前講座なども継続して実施しながら、色々な発信のツールも使って周知していくことが重要である。</p>
<p>委員</p>	<p>我々が普段買い物をするスーパーマーケットにおいては、見るだけで売れ筋商品やトレンドを知ることができるよう陳列方法が工夫されており、高い技術だと感じる。また、客が簡単に店内を回ることができるように工夫されている。</p> <p>自分自身、様々なスーパーと取引を行うことにより、これを買うことによってスーパーが助かるという風に変えることができた。エシカル消費と呼ばれるように、消費者が消費行動を変えることができるようなアプローチが重要ではないか。それを市民連動型、協働型で進めていくことが理想である。</p>
<p>会長</p>	<p>スーパーマーケット協議会などでも、金沢市と連携した事業を考えていただけるとありがたい。また市の方でも検討いただければと思う。全国大会については、今日いただいたご意見を踏まえながら、進めていただきたいと思う。</p> <p>なお今後運営に関し、微修正等が出た場合には会長に一任していただき、事務局と調整していきたい。よろしく願います。</p> <p>この全国大会を機に、本市の食品ロス削減の取組みが全国にもっと発信されれば良いと思う。トークセッションでは、全国の取組みについてもお話いただけると伺っているので、それらを含めて様々な情報発信ができた</p>

事務局	<p>ら良いと思う。</p> <p>皆さんには是非お時間があれば、会場まで足を運んでいただきたい。以上で会議の進行を事務局にお返りする。</p> <p>【5. 閉会】</p> <p>長時間にわたり熱心にご協議いただき感謝申し上げます。</p> <p>以上をもって、令和5年度第1回金沢市食品ロス削減推進協議会を閉会する。</p>
-----	---